



613-001198 Rev.D 100416



最初にお読みください

# CentreCOM® GS900M V2シリーズ リリースノート

この度は、CentreCOM GS900M V2 シリーズ（CentreCOM GS908M V2/GS916M V2/GS924M V2。以下、特に記載がないかぎり、「本製品」と表記します）をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。

このリリースノートは、取扱説明書とコマンドリファレンスの補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

## 1 ファームウェアバージョン 2.0.5

## 2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.0.2 から 2.0.5 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 SHOW CONFIG コマンドなどで複数画面に渡る情報を表示中に、本製品宛ての通信をするとリブートが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.2 起動時設定ファイルに、SNMP 関連の設定が含まれていると、本製品の起動が正常に完了しない場合がありますが、これを修正しました。
- 2.3 SNMP 有効時、SNMP エージェントに対するアクセスのタイミングによって、ケーブルが接続されていないポートでリンクアップ・ダウンが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.4 SET SWITCH MIRROR コマンドでミラーポートを設定すると、「delete vlan=default port=x（ミラーポート）」の設定が設定ファイルに表示され、設定を保存すると再起動時にエラーが発生していましたが、これを修正しました。
- 2.5 ポート認証とループガードの LDF 検出を併用すると、LDF 検出の一部の機能が使用できなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 2.6 Multiple STP において、1 つの MST インスタンスに対して多数の VLAN を関連付ける設定を行うと、一部の VID が設定ファイルに正常に反映されないことがありましたが、これを修正しました。

## 3 本バージョンでの制限事項


ファームウェアバージョン 2.0.5 には、以下の制限事項があります。

### 3.1 Multiple STP とポート認証マルチプルダイナミック VLAN の併用

Multiple STP とポート認証のマルチプルダイナミック VLAN は併用できません。

---


## 3.2 SNMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」**

- SNMP マネージャーのタイムアウトによって、同時に5 個以上のSNMP マネージャーから ifEntry を Get できない場合があります。SNMP マネージャーのタイムアウト値を長く設定するようにしてください。
- SNMP マネージャーから、トランクポートをディセーブルに変更する設定をしても、エラーで設定が有効になりません。トランクポートをディセーブルに設定する場合は、CLI または Web GUI を使用してください。
- SNMP 有効時、本製品 IP アドレスの設定を変更すると、SNMP へのアクセス、トラップの送信ができなくなります。
- ブリッジ MIB の dot1dStpTopChanges が、正しくカウントアップしません。

---

## 3.3 RADIUS サーバー

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**

- 802.1X 認証有効時、SET RADIUS コマンドの DEAD-ACTION パラメーターで PERMIT を設定しても、RADIUS サーバーからの応答がないときに、通信ができなくなる場合があります。
- RADIUS アカウンティング機能有効時に、RADIUS サーバーから Access-Reject パケットを受信すると、本製品から Failed 属性が付加された Accounting-Request パケットが送信されます。
- RADIUS アカウンティング機能において、Accounting-Interim-Update パケットの送信が有効に設定されていても、1～3 パケット送信後に送信が停止します。また、Accounting-Interim-Update パケットの送信後に本製品からログアウトをすると、Stop 属性の Accounting-Request パケットが送信されない場合があります。

---


## 3.4 IP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」**

ICMP エコー要求 (Ping) パケットを受信したとき、応答に 20 ミリ秒程度かかる場合がありますが、これは正常動作です。

---

## 3.5 スイッチング


 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- スイッチポートの通信速度を変更するとリンクダウン・リンクアップが発生しますが、複数のポートを指定して、AUTONEGOTIATE、10MHAUTO、10MFAUTO、100MHAUTO、100MFAUTO、10-100MAUTO のいずれかに設定を変更した場合、link- down、link-up メッセージが表示されないポートがあります。
- 通信モードが 1000M Full Duplex 固定に設定された光ポート (SFP ポート) に対して、物理的にリンクダウンさせる設定を行わないでください。  
DISABLE SWITCH PORT コマンドによる LINK=DISABLE の設定、および SET SWITCH LOOPDETECTION/STORMDETECTION コマンドによる ACTION=LINKDOWN の設定が本制限に該当します。

- (GS908M V2 のみ) DISABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンドの PORT パラメーターに ALL を指定して実行すると、SFP ポートも対象に含まれた設定が設定ファイルに書き込まれます。設定を保存後、本製品を再起動するとエラーになりますが、動作には影響ありません。
- 100Mbps でリンクしているポートに対して、RESET SWITCH PORT コマンドを実行すると、9077Byte 以上の Jumbo フレームの転送ができなくなります。
- (GS916M V2/GS924M V2 のみ) GS916M V2 のポート 9～14、GS924M V2 のポート 9～14, 17～22 に対して、通信モードを 100MFULL に設定変更すると、該当ポートがリンクしていないにもかかわらず SPD/DPX LED が点灯します (SPD/DPX LED 表示切り替えボタンで DUPLEX 選択時)。
- (GS908M V2 のみ) SFP ポートで 1000BASE-T の SFP を使用しているとき、SFP ポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーターの指定で物理的にリンクダウンさせても、対向機器のポートがリンクダウンしません。

---


### 3.6 ポートミラーリング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

ソースポートとミラーポートの設定が行われていると、ポートミラーリング機能が無効に設定されていても、ソースポートから送出される BPDU がミラーリングされます。

---


### 3.7 ポートセキュリティ

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

- ポートセキュリティ有効ポートに対して、ACTIVATE SCRIPT コマンドを使用してスクリプトによる他の設定を行わないようにしてください。スクリプト実行中に本製品がリポートする可能性があります。
- SET SWITCH PORT コマンドの INTRUSIONACTION パラメーターでアクションを設定する際に、対象ポートとして、通常の学習モード (ポートセキュリティ無効) のポートと、ポートセキュリティ有効かつ INTRUSIONACTION=DISABLE の実行により無効になっているポートが混在していると、ポートセキュリティ有効ポートの INTRUSIONACTION=DISABLE の設定が解除されます。  
INTRUSIONACTION の設定を変更する際には、SECURITYMODE と INTRUSIONACTION の設定が同一のポートを指定するようにしてください。
- SET SWITCH PORT コマンドの SECURITYMODE パラメーターでポートセキュリティを SECURED に設定する際に、対象ポートとして、INTRUSIONACTION が DISABLE に設定されているポートと、INTRUSIONACTION が DISABLE 以外に設定されているポートが混在していると、INTRUSIONACTION=DISABLE の設定が動作しません。ポートセキュリティを SECURED にする際には、INTRUSIONACTION の設定が同一のポートを指定するようにしてください。

---

### 3.8 ポートトランキング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**


- トランクポートを、DISABLE SWITCH PORT コマンドの LINK パラメーターの指定で物理的にリンクダウンさせた後、トランクグループから削除すると、ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行しても通信が復旧しなくなります。

トランクグループからポートを削除する場合は、ポートがリンクアップした状態で行うようにしてください。

- リンクダウンしているポートをトランクグループに追加し、次に削除するという設定を行うと、SHOW SWITCH PORT コマンドで表示される Status に「Enabled by Trunk」という誤った表示がされます。  
また、この状態から、同ポートに対してポートセキュリティーの設定を行うと、ポートの状態が無効になり、リンクアップさせても通信ができなくなります。
- ポートトランキングと IGMP Snooping 併用時、複数のトランクグループがあると、DVMRP パケット受信時に最初に作成したトランクグループ以外のグループでポートトランキングが機能せず、グループ内のすべてのポートに DVMRP パケットがフラッディングされます。
- トランクグループに設定されている通信速度が、ポート本来の通信速度と異なる場合、以下の条件において、本製品起動時にトランクポートがポート本来の通信速度でリンクすることがあります。
  - ・ 該当ポートが SET SWITCH PORT コマンドの SPEED パラメーターで AUTONEGOTIATE, 10MHAUTO, 10MFAUTO, 100MHAUTO, 100MFAUTO, 10-100MAUTO のいずれかに指定されている場合
  - ・ 該当ポートに対して 1 つ以上のスタティックエントリーが FDB に登録されている場合 ポート本来の通信速度とトランクポートに設定する通信速度は同じになるようにしてください。

---


### 3.9 省電力モード

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

ENABLE SWITCH POWERSAVE コマンドでポートの省電力モードを有効にした後、RESET SWITCH PORT コマンドを実行すると、対象ポートで省電力モードが無効になります。

---


### 3.10 EPSR アウェア

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「EPSR アウェア」**

ポートの状態が Down から Blocking に変わるときは、ログメッセージを出力しない仕様ですが、ENABLE SWITCH PORT コマンドによって Down のポートを Blocking に変更した場合は、ログメッセージが出力されます。また、Blocking のポートに対して、ENABLE SWITCH PORT コマンドを実行すると、同じログメッセージが 2 個出力されます。

---


### 3.11 バーチャル LAN

 **「コマンドリファレンス」 / 「バーチャル LAN」**

複数の VLAN にタグ付きポートとして所属しているポートに対して、通信中に、1 個の VLAN のタグ設定をタグなしに変更する設定を行うと、同ポートが所属するすべての VLAN についてダイナミックエントリーが FDB に登録されます。

---

### 3.12 IGMP Snooping


 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**


- IGMP Snooping 有効時、IGMP パケットの通信中にグループの所属 VLAN を変更すると、IGMP Snooping 用のテーブルから変更前の VLAN 情報が削除されません。

- IGMP Snooping 有効時、メンバーが存在するポートをミラーポートに設定しても、IGMP Snooping 用のテーブルから該当ポートの情報が削除されません。
- IGMP Snooping と、EPSR アウェアまたはスパニングツリープロトコル併用時、経路の切り替えが発生したときにマルチキャストグループの登録がクリアされないため、切り替え前に登録されたルーターポートが残ったままになります。  
なお、EPSR アウェアについては、CREATE EPSR コマンドの DELETEMCAST オプションで、リングトポロジーチェンジ発生時にマルチキャストグループのエントリを FDB から削除する設定が可能です。

---

### 3.13 IGMP Snooping/MLD Snooping


 **「コマンドリファレンス」 / 「IGMP Snooping」**

 **「コマンドリファレンス」 / 「MLD Snooping」**

ポートランキングと IGMP Snooping または MLD Snooping の併用時、トランクグループ内で最も番号の小さいポートを DISABLE SWITCH PORT コマンドで無効に設定すると、トランクグループ内のそれ以外のポートでマルチキャストデータが転送されなくなります。ただし、DISABLE SWITCH PORT コマンド実行時に LINK=DISABLE を指定して、該当ポートを物理的にリンクダウンさせると、本現象は発生しません。

---


### 3.14 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」**

- SET PORTAUTH PORT コマンドで PORTAUTH=AUTO を指定した場合、Web 認証において認証失敗 (Held) になるまでのログイン試行回数にはばらつきがあります。
- ポート認証のマルチプルダイナミック VLAN (VLANASSIGNMENTTYPE=USER 設定) で認証が行われたあと、ポート認証の機能を無効に設定しても、アサインされた VLAN に登録されている本体 MAC アドレスを持つエントリが FDB から削除されません。
- ポート認証有効時に、Telnet 経由で SHOW DEBUG コマンドを実行すると、まれに本製品がリブートすることがあります。  
SHOW DEBUG コマンドを実行する場合はコンソール経由またはポート認証を無効にして実行するようにしてください。

---

### 3.15 スパニングツリー

 **「コマンドリファレンス」 / 「スパニングツリープロトコル」**

本製品の実装では、トポロジーチェンジ発生時にエッジポートに設定されたポートの FDB が消去されます。

---

### 3.16 Web GUI

 **「コマンドリファレンス」 / 「Web GUI」**

- Web GUI でマルチプル VLAN(Protected Port 版) のポート設定を行う際、グループ番号の設定変更とタグなし / タグ付きの設定変更を同時に行うことができますが、個別に変更するようにしてください。  
グループ番号の変更とタグなし→タグ付きの変更を同時に行った場合、該当ポートがタグなしとしてデフォルト VLAN にも追加されます。

- マルチプル VLAN (Protected Port 版) が設定されている状態から、Web GUI で、VLAN からのポートの削除、または VLAN の削除を行っても、マルチプル VLAN の設定どおりに転送処理が行われます。  
このような設定は CLI で行うか、Web GUI で行った場合は、設定を保存後本製品を再起動するようにしてください。
- Multiple STP において、1 つの MST インスタンスに対して多数の VLAN を関連付ける設定を行うと、CIST/MSTP インスタンス一覧画面で一部の VID が正しく表示されないことがあります。  
CIST/MST インスタンス変更画面では正しく表示されます。
- 認証済み Supplicant が存在する Authenticator ポートを、Web GUI で所属 VLAN から削除する設定ができません。

## 4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

---

同梱の取扱説明書、および「CentreCOM GS900M V2 シリーズ コマンドリファレンス 2.0.1 (613-001180 Rev.B)」の補足事項です。

---

### 4.1 トリガーエントリーの作成

 「取扱説明書」 87 ページ

取扱説明書の 87 ページ「トリガーエントリーの作成」において、CREATE TRIGGER コマンドの ENDTIME と STARTDATE パラメーターの説明に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

- ENDTIME  
誤：  
ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。  
正：  
PSMODE に SLEEP が指定されている場合、ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。  
PSMODE に PORTOFF または LEDOFF が指定されている場合、ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。
- STARTDATE  
誤：  
ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。  
正：  
PSMODE に SLEEP が指定されている場合、ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま終了しません（解除をしないかぎりパワーセーブモードが継続します）。  
PSMODE に PORTOFF または LEDOFF が指定されている場合、ENDDATE と ENDTIME の指定を省略すると、トリガーは起動したまま翌日になるまで終了しません。

## 4.2 ポート認証

### 「コマンドリファレンス」 / 「ポート認証」

SET PORTAUTH PORT コマンドの「備考・注意事項」において、記載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正して、お詫びいたします。

誤：

サポート Supplicant 数はすべての認証メカニズムを合わせて、320/PORT、480/SWITCH である。マルチプルダイナミック VLAN 使用時のサポート Supplicant 数は 2/PORT、18/SWITCH (GS908M V2)、28/SWITCH (GS916M V2)、40/SWITCH (GS924M V2) である。

正：

サポート Supplicant 数はすべての認証メカニズムを合わせて、320/PORT、480/SWITCH である。マルチプルダイナミック VLAN 使用時のサポート Supplicant 数は 8 である。

## 5 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (パラメーター) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

```
SET HTTP SERVER PORT
SET SYSTEM LANG
RESET PORTAUTH PORT
LOAD [BOOTPKG]
SET IGMP Snooping Host Status
SET MLDSNOOPING HOSTSTATUS
```

## 6 コマンドリファレンスについて

コマンドリファレンス「CentreCOM GS900M V2 シリーズ コマンドリファレンス 2.0.1 (613-001180 Rev.B)」は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、あわせてご覧ください。

コマンドリファレンスのパーツナンバー「613-001180 Rev.B」はコマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>